

経済・金融 フラッシュ

雇用統計 09年1月 ～製造業を中心に休業者が増加

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 製造業を中心に休業者が増加

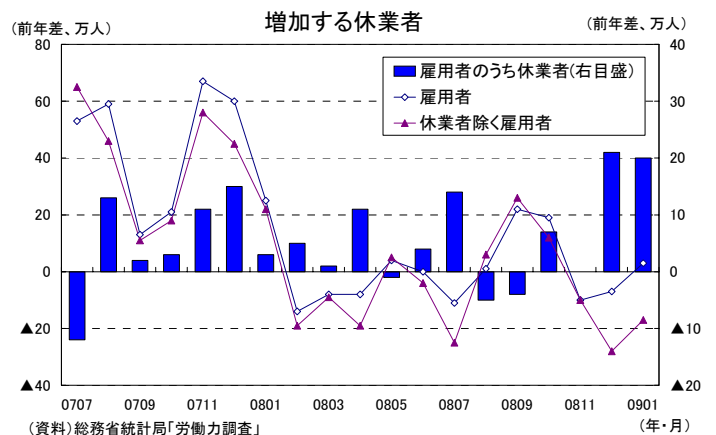
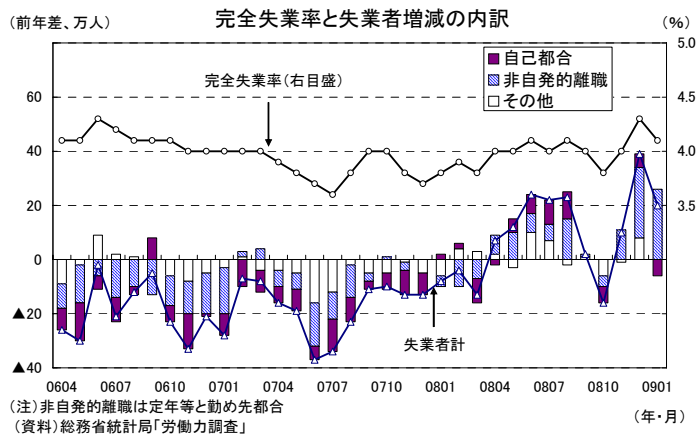
総務省が2月27日に公表した労働力調査によると、1月の完全失業率は前月から0.2ポイント低下し4.1%となった。市場の事前予想（ロイター集計：4.6%、当社予想も4.6%）を大幅に下回る結果であった。

自営業主・家族従業者数は減少が続いたが、雇用者数が前年比0.1%（12月：同▲0.1%）と3ヵ月ぶりに増加に転じたため、失業者数は前年に比べ21万人の増加となり増加幅が縮小した（12月は39万人増）。

失業者の内訳を求職理由別に見ると、非自発的な離職による者が前年に比べ26万人増（うち勤め都合が23万人増）、自己都合が▲6万人減となっており、失業の中身が深刻化していることをうかがわせるものとなった。

また、雇用者数は前年比ほぼ横ばいの動きが続いているが、雇用者の中には休業者が含まれていることには注意が必要だ。1月の休業者数（雇用者の内訳）は106万人で前年に比べ20万人の大幅増加となった（12月は21万人増）。産業別には製造業が9万人増と全体の半数近くを占めている。休業者の中には育児休暇中の者なども含まれるが、減産のために工場の操業をストップする企業が相次いでいることから、失業者にはなっていないものの、一時的に休業を余儀なくされている人が増えている可能性が高いだろう。

なお、1月分の公表と同時に過去にさかのぼって失業率の季節調整替えが実施された。大幅な改



定はなかったが、08年度入り後最も低かった08年10月が3.7%から3.8%へ上方修正される一方、最も高かった08年12月が4.4%から4.3%へと下方修正された。

2. 非正規雇用の減少は確認されず

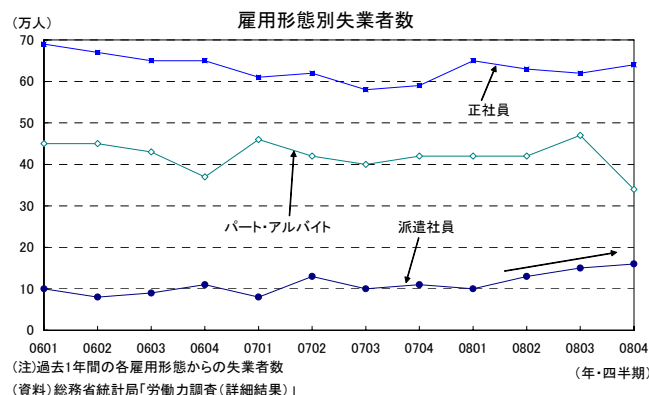
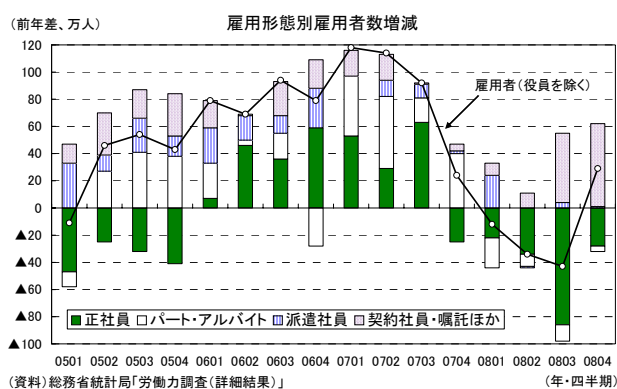
09年1月分と同時に公表された08年10-12月期の労働力調査詳細結果によると、正社員（正規の職員・従業員）は3390万人、前年に比べて28万人の減少、4四半期連続の減少となった。

非正社員（非正規の職員・従業員）は1796万人、前年に比べて58万人の増加となった。非正規雇用比率（役員を除く雇用者に占める非正社員の割合）は34.6%となり、前年に比べ+0.9ポイント、5四半期連続の上昇となった。

非正社員の内訳を見ると、パート・アルバイトは4万人減少したが、契約社員・嘱託が34万人増、その他が27万人増となった。また、昨年末から今年初めにかけて「派遣切り」報道が連日繰り返されてきたが、派遣社員は前年に比べ1万人増とほぼ横ばいだった。

雇用形態別の失業者（過去1年間の各雇用形態からの失業者）を見ると、派遣社員の失業は増加傾向が続いている。それにもかかわらず、現時点で派遣社員が減少していないのは、ほぼ同数の新規雇用が確保されているためである。

すでに非正社員の雇用調整は本格化しているというのがコンセンサスとなっているが、本日発表された08年10-12月期の労働力調査（詳細結果）からは、そのような姿ははっきりと確認できなかった。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。